

那建第 353 号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

那須町長 佐藤 正 洋



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付け国道企第37号で提出依頼のありました標記の件について、別紙のとおり提案回答いたしますので、よろしくお取り計らいくださるようお願いいたします。

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

様式①

栃木県 那須町

道路は、日常生活、社会経済活動、医療や福祉といったあらゆる面で地域社会を支える最も基本的な社会資本です。我々地方においては移動手段は車のみです。車が走る道路は、地域住民の生活、命、教育、文化そのものとなっております。しかしながら、地方の道路状況は、すれ違いが容易でない道路、路面の損傷が著しい道路、歩道の無い道路、歩道の無い通学路など、解決しなければならない様々な問題を抱えています。

都市部に住む人々の中には道路整備はもう終わったなどといった意見を耳にします。これは地方の実情を全く理解していない暴論としか聞こえません。地域間格差への対応や生活者重視の視点から、地方の自主性にも配慮しつつ地域のニーズを踏まえた、真に必要な道路整備の推進を今後とも積極的に図っていく必要があります。

以上の観点から、次のとおり今後の道路行政についての意見・提案を申し上げます。

1. 適切な道路・橋りよりの維持管理

道路の安全安心な交通を確保するため今後益々重要さを増す通常の維持管理に加え、老朽化が進む道路・橋りよりのストックに対し定期的な点検・予防保全による長寿命化の推進や更新など、適切な維持管理を行う為の国の財政的支援を強く要望します。

2. 安全安心の確保

安全な道路交通環境実現のため、市街地や学校周辺、観光名所周辺等、歩行者の通行が多い道路においては、住民や児童・生徒、観光客の安全を守る観点から、歩道の整備促進を積極的に推進する必要があります。

3. 地域の自立と活力の強化

地方に住む人々の生活の基盤として地域間を結ぶ幹線道路の整備は必要不可欠であります。またまだ未整備区間が多く通行車輻や沿線住民の生活に大きな支障をきたしており、今後尚一層の整備促進が必要であります。産業・観光振興等による地域経済の活性化を図るため、地域間の連携を強化する広域道路ネットワーク、地域の日常生活を支える生活幹線道路ネットワークを構築するための積極的な支援をお願いいたします。また、地域経済の活性化や観光地等における慢性的な交通渋滞解消を図る観点から、通常インターチェンジより割安で設置可能な高速道路スマートインターチェンジの積極的な整備促進を求めます。

今後の道路行政についての意見・提案

②ー1 地域の現状と抱える課題

○現状	○課題
1. 日光国立公園の一部をなす那須高原には年間約500万人の観光客が訪れています。このため観光シーズンには東北自動車道より北側は著しい渋滞が発生しています。 2. 東部の芦野・伊王野地域は、豊かな自然や史跡、文化財に恵まれているが、県境をまたぐ道路整備が遅れています。このため観光客の誘客に大きな障害となっています。 3. 本町の中心地であり役場所在地である黒田原地区は、行政、商業、居住などの機能が集積しているが、JR東北本線の変形踏み切りや、周辺道路の未整備により振興発展が阻害されています。 4. 本町の町道は647路線、総延長600kmに及んでおり、維持管理費が増大しています。特に舗装路面の老朽化が著しく、舗装修繕の必要性が増加しています。 5. 町道にかかる橋梁は257橋あり、そのうち橋齢25年以上の橋が220橋に及んでおり老朽化が著しく、ひとたび地震や災害が起きると大きな被害の恐れがあります。 6. 本町を訪れる観光客は豊かな自然を求めて訪れる人々が多く、観光名所周辺において散策やハイキングをする人が増加しています。 しかしながら歩道や遊歩道の整備は遅れており、住民や観光客から遊歩道、歩道の設置が強く求められています。	1. 那須高原地域の渋滞は観光客はもとより、地域の生活、産業活動に大きな支障をきたしており、道路ネットワークを構築して観光客を分散、迂回させる道路の整備が課題であります。 2. 県境をまたぐ道路の整備については財政的理由により遅々として整備が進みません。地域の振興に真に必要な道路の整備のための財源の確保が課題であります。 3. 本町の中心地の活性化を図るには、道路整備を核とした町並みの整備、商店街の賑わい、産業の振興等の施策が考えられますが、地方における財政の硬直化により、計画的な整備が難しい状況にあります。 4. 町道の維持管理に関し、特に舗装路面の舗装修繕は国の助成制度が無く、町単独による修繕となり財政的に大変厳しく、国の助成制度の創設が強く望まれます。 5. 老朽化した橋梁の架け替えは大きな財政的負担が伴うことから、計画的な架け替えができません。通行者の安全を守る観点から見ると老朽化した橋梁が多いことは大きな問題であるが、財源の確保が課題であります。 6. 本町の幹線道路や周辺道路については歩道の未整備区間が多いが、財政的な負担が大きく歩道の整備は困難であります。

本町は観光と農林業を中心とした町であり、特に観光については豊かな自然と温泉、各種のテーマパークを求めて、年間約500万人の観光客が訪れており、自然的、地理的条件から、今後、益々「那須高原」の知名度が高まり、高級リゾート地として重要性が増大するものと想定されます。

第6次那須町振興計画においても、道路整備は「人が行き交いふれあうまちづくり」を目指して各種の施策に取り組むものとしています。那須町全域を観光地化するため、町内全域を有機的に結びつける「那須町道路ネットワーク構想」を策定し、それに基づき町内の道路整備を進めていきます。

すなわち、東北自動車道那須インターチェンジ、那須高原スマートインターチェンジを起点として、国道4号、国道294号や主要地方道、県道、町道を結ぶネットワークにより、町内周遊コースの確立を図ることといたします。

また、町道については、地域の振興・開発、住民の生活道路として必要性等の観点から格付けを行い、重要度の高い路線から計画的な整備を推進していきます。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式④
栃木県 那須町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	・那須高原スマートインターチェンジの整備	那須町は豊かな自然と豊富な温泉を有し冷涼な気候と相まって、日本有数のリゾート地としての地位を確立しております。那須町を訪れる観光客は年間500万人に達し、その多くは首都圏からの観光客です。四季折々に変化する那須の自然や温泉は、都会に住む人たちに大きな感動と心の安らぎを与えております。 しかしながら一方、春のゴールデンウィーク、夏休み期間、秋の紅葉時期においては、東北自動車道那須インターチェンジ周辺から主要地方道那須高原線沿線で交通大渋滞を引き起こし、地域の生活や経済活動に大きな支障をきたしております。 このような状況下において、東北自動車道における那須インターチェンジ利用の分散化と、那須高原地域における渋滞の緩和、交通の円滑化を図りながら、新たな観光周遊ルートを確立する那須高原スマートインターチェンジの整備は、首都圏からの観光客を那須インターチェンジの出入り口渋滞に影響されことなく円滑に那須高原へ誘導し、観光施設の集客の増加を図るとともに、地域経済の利便性や日常生活の向上に大きく寄与するものと考えております。 既に平成19年4月からは東京方面への乗り入れ及び東京方面からの出口として通行が供用開始となり、更に平成22年春の完成を目前に現在フルインター化に向けて整備中であり、地元観光業、商工業に携わる方々はもとより、地域の活性化を図るうえで、全町民が大きな期待をしているところです。	